

# モモ「はつひめ」の予備摘果は 結実確認後の満開後 35 日頃までに行う

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

部門名 果樹－モモ－栽培

担当者 三田村諭、安達義輝、増子俊明

## I 新技術の解説

### 1 要旨

本県育成の早生品種である「はつひめ」は花粉が無く、一般的な予備摘果時期である満開後 25 日頃では結実の判断が難しい。そこで、「はつひめ」に適した予備摘果時期を推定するため、結実を確認できる時期（満開後 35 日）に予備摘果を行った結果、結実量を十分確保でき、果実肥大は満開後 28 日に摘果した場合と同程度だった。このことから、満開後 35 日頃までに予備摘果を行うことで、果実肥大への影響なく結実量を確保できることを明らかにした。

(1) 2016 年～2019 年の果実肥大経過は、各年とも調査期間を通じて、28 日摘果区と 35 日摘果区の間で差がなかった (図 1)。

(2) 2017 年と 2019 年の収穫果の階級ごとの果数割合は、28 日摘果区と 35 日摘果区の間で差がなかった (図 2)。

### 2 期待される効果

(1) 「はつひめ」の結実量が安定することで、安定した生産が可能となる。

### 3 適用範囲

(1) 本県のモモ産地で栽培される「はつひめ」

### 4 普及上の留意点

(1) 4 月以降の少雨等により小玉が予想される場合には、適宜灌水することで果実肥大を確保することが望ましい。

(2) 「はつひめ」は早生品種の中では核割れが少なく、硬核期終了から 10 日程度で収穫となるため、仕上げ摘果時に概ね最終着果量～1 割増し程度とすることが望ましい。

(3) 「はつひめ」は 7 月上旬収穫の早生品種であるため、最終着果量は中生種「あかつき」よりも 1 割程度少なめを目標とする。

## II 具体的データ等

表1 「はつひめ」の発育経過と生育期間中の降水量

調査年	開花	硬核期		収穫期			果重 (g)	降水量の平年比 (%)			
		盛	始	終	始	盛		終	4月	5月	6月
2016	4/14	6/5	6/23	6/30	7/4	7/7	263	141	34	60	75
2017	4/21	6/11	6/28	7/7	7/11	7/13	273	89	78	42	66
2018	4/13	6/1	6/19	6/29	7/2	7/5	<b>239</b>	56	111	18	<b>58</b>
2019	4/20	6/9	6/24	7/4	7/8	7/11	264	101	76	142	110
平均値	4/17	6/6	6/24	7/2	7/6	7/9	260				

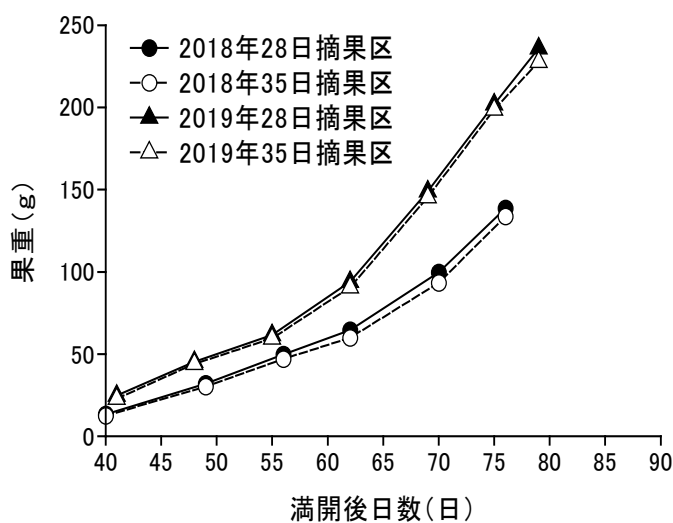


図1 果実肥大の推移

注1) 各年の各時期とも分散分析(危険率5%)により有意差なし。

注2) 本試験は、樹齢10年前後の早生種「はつひめ」で、発芽前に結果枝の基部5cm程度を摘らいした樹を用いた。

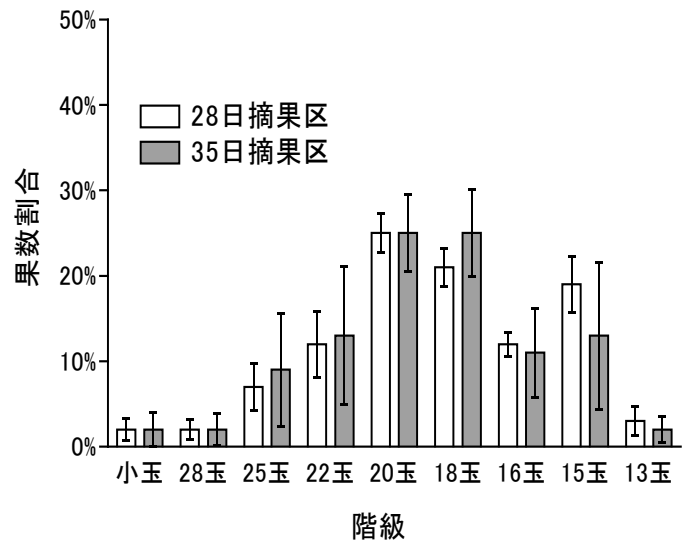


図2 収穫全果の階級ごとの果数割合 (2019年度)

注1) 各階級の処理区間でt検定(危険率5%)により有意差なし。

注2) 階級は光センサー選果機の選果データより算出した。

## III その他

### 1 執筆者

三田村諭

### 2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成27年度～令和2年度

(2) 研究課題名 県オリジナル果樹品種の安定生産技術確立

### 3 主な参考文献・資料

(1) モモの作業便利帳, p.41-48, 2001.